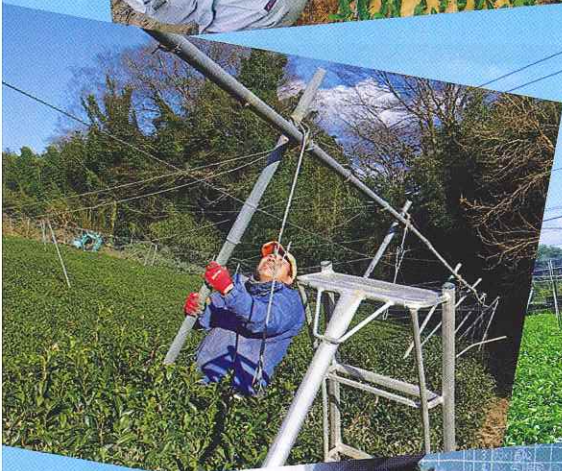




普及センターだより



中丹茶を未来へ繋ぐ若手集団!



若手茶農家が増えたことを機に、平成26年、のくに茶業青年団(旧両丹茶青年団)が復活しました。茶業青年団は、各種イベントにおける茶消費拡大の取り組みの他、小学校で「おいしいお茶の淹れ方教室」による食育を行うなど、将来のお茶ファン確保に向けた自発的な取り組みを行っています。

先月の7月豪雨での被災など、近年気象災害を受けることが多くなりまりましたが、茶園の復旧にも全力で取り組み、茶産地の維持発展に努力されています。将来の中丹茶を背負う担い手として、今後益々の活躍が期待されます。

京都府中丹広域振興局農林商工部

ひがし
中丹東農業改良普及センター
〒623-0012 綾部市川糸町丁目10-2
TEL 0773-42-2255
e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

にし
中丹西農業改良普及センター
〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901
e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

発行
2018年(平成30年)
夏号

～中丹地域で取組む普及活動の重点課題～

1 ものづくり・販路づくり

平成30年度から国の水田政策が変わり、需要に応じた生産がこれまで以上に求められるようになっていきます。

① 消費者や販売の実需者から支持される中丹米の評価向上につながる取組や酒造業界から需要増が期待される原料米「京の輝き」の収量確保の取組を行います。



良食味実証ほを設置

② 卸売業者や加工業者からの人気が高い中丹の特産小豆について、需要に見合う収量向上を図る取組を行います。

③ 万願寺甘とうを経営の柱としようとする担い手の相互の研鑽の場「万とうゼミ」を主催し、そこで得られた技術や知見の波及や栽培マニユアル見直しなどを通じて産地全体の底上げを図ります。



万とうゼミの京都市場視察

2 地域・絆づくり

近年、交通網が整備され、人の往来が活発化する中、地域の活力が集う「直売所」の魅力を高め、観光客や消費者を惹きつける仕組みづくりを関係機関と連携して推進します。

① 農産加工等に取組む加工組織を対象にしたセミナー開催や新たに取組む加工品の商品化を支援します。

② 地域資源を活用した農作業や加工体験メニュー提供のモデルを育成し、その取組の波及や直売所での情報発信を支援します。



中丹管内の主な直売所で加工品の販売状況を調査

3 人づくり・組織づくり

農業就業人口の減少や生産者の高齢化の中で、農業参入者の確保と定着が課題となっています。

① 具体的で実践的な営農類型を策定し、就農希望者の経営計画立案を支援します。

② 農業技術が未熟な方に、講座を通じて農業に関わる生産・経営の基礎技術習得の場を提供します。

③ 共生社会の実現にも寄与する農業と福祉の関わりについて、農業者及び福祉施設双方の意向調査などからその連携のあり方を模索するとともに、障がい者が新たな担い手として参加できる具体的な連携に向けた取組を進めます。

7月豪雨で被災された皆様へ

7月5日から8日の豪雨により、中丹地域では尊い人命、生活・農業基盤などに甚大な被害が発生しました。被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

普及センターでは、皆様方の営農再開に向けて職員一同、全力で支援してまいります。

地域で活躍する農業士



みさき かなめ
三崎 要さん
(福知山市三和町)

三崎さんは1ターンの新規就農者として、2年間の先進的農家研修後、三和町で就農し、青年農業士、指導農業士と活躍されています。

また、担い手養成実践農場の指導者や研修の受入先となり、就農希望者にアドバイスなど積極的な就農支援に取り組まれています。御自身の経営では、(株)八百丹を設立し、みず菜など葉物野菜を中心に生産・販売をされています。

本気で新たに農業に挑戦する人に対し、「十分生活できる」「自然と調和した魅力的な職業」とアドバイスしています。また常に農家同士のつながりも重視した相談活動をされています。

担い手養成実践農場研修了者にきく

△就農準備型▽



たかはし たかあき
高橋 孝明さん
(綾部市西坂町)

<経営概要(30年度)>

- ・万願寺甘とう 25a (ハウス10a 露地15a)
- ・軟弱野菜(甘とう裏作)
- ・露地野菜 30a
- ・小豆 70a

地元出身の高橋さんはサラリーマンを経験後、地元で新規就農されました。元々、自営の仕事并希望されており、今後の発展性や業界への参入のしやすさ等を考慮し、農業の経営者になることを選択されました。平成26年度から2年間の研修を経て独立就農され、現在は万願寺甘とうを経営の柱とし、露地野菜や小豆を加えた複合経営を実践されています。

農業は利ざやが少ない上に大量生産も困難だと感じている高橋さんですが、「経営者だから農業は面白い」「10年後の目標売上額は5千万円」「失敗は成長に繋がる」とはつきり言われ、地域からも頼もしい若手経営者として期待されています。

京力農場プランで はばたく地域



森田自治会長(左)と四方代表理事

小西地区(綾部市小西町)

- ・中心となる担い手 2戸+1組織
- ・水田面積 25ha
- ・スローガン 『小西の農地と特産物を守り、新たな作目を皆の力で育成し、活力ある集落にしよう』

小西町は綾部市の西部に位置し、山間地と平地がそれぞれ5割程度の集落で、昔から水稲とお茶に力を入れている地域です。お茶については、綾部市の単独集落で唯一茶工場があり、綾部市の茶生産の一翼を担っています。一方、平成19年に農事組合法人「えーのー小西」を設立し、現在では12haの水田を引き受け、地域の農地を守っています。

平成27年度の京力農場プラン作成をきっかけに地域の新たな特産物が必要と考え、集落の方の協力を得ながら黒大豆枝豆の栽培を開始しました。平成29年度からは「えーのー小西」で生産し、高い品質の枝豆を出荷しています。今後は、茶や枝豆などの特産物を活用し地域を発展させていきたいと考えています。



斜面に広がる茶園



今年度播種した枝豆

〇〇さん家のお料理レシピ 『万願寺とうがらしのピクルス』



舞鶴市生活研究グループの皆さんにお聞きしました

<材料>

- | | |
|----------|-------------|
| 万願寺とうがらし | 1kg |
| 水 | 2.1L |
| 塩 | 150g |
| 振り塩 | とうがらしの重量の1% |
| 酢 | 250cc |
| 砂糖 | 200g |
| 酒 | 300cc |
| 水 | 300cc |
| 昆布 | 40g |

- ①鍋Aに水2.1Lと塩150gを入れ沸騰させて冷ます
- ②とうがらしのへたを切り、縦2つ割りにして種を取る
- ③一口大の大きさに切る
- ④大きめの鍋Bに沸騰させた湯の中へ②を入れ、さつと吹き飛ばし引き揚げ(殺菌)
- ⑤引き揚げたとうがらしに1%の振り塩をする
- ⑥冷めた①の中へ冷めたとうがらしを入れて10~15時間置く(塩漬)
- ⑦☆をすべて合わせて鍋Cに入れふたをせず中火で煮立て、煮立ったらふたをして冷ます
- ⑧冷めた液の中へ⑥から引き揚げたとうがらしをつけて完成

夏バテ防止に!
食卓のもう1品に
どうぞ!



1~2週間後が食べ頃です

普及センター掲示板

農業基礎講座募集

農業を始めて間もない方や、これから本格的に農業を取り組もうとしている方を対象に、農業の基礎的な知識習得を目的とした講座を10月から12月にかけて7回開催します。

※家庭菜園志向者は除きます。

講座の主な内容

野菜の栽培概要、土づくり、農業機械の安全使用、鳥獣害対策、病虫害対策、先輩農家のほ場見学など



昨年度の講座風景

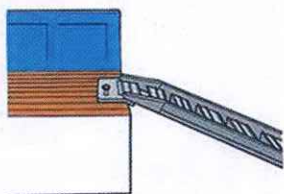
■募集期間 8月1日(水)～8月31日(金)

■問い合わせ・申込み 中丹東農業改良普及センターまで

コンバイン事故に注意

平成27年には中丹でもコンバイン転落死亡事故が起こっています。他人ごととは考えずに農作業安全に取り組みましょう。

- ・トラックの積み降ろしに注意。重量に合ったアルミブリッジを使用、登り切った後も注意。荷台側がゆるい勾配になるペロタイプが安全(トラックにも穴をあけ、ピンを差し込む)
- ・畦を乗り越える時は直角に。
- ・わらくずを取る時はエンジンを止めて。
- ・コンバインは前に重心があるので、田からは前進で出る。
- ・移動させる時は籾を排出しておく。籾が入ると右後ろが重くなって前が上がりやすくなる。左側が乗り上げると横転する。



ペロタイプはフレームをピンで固定

外来雑草フウリンホオズキ対策

外来雑草ヒロハフウリンホオズキ、センナリホオズキ等が急速に拡大しています。

1株で1万粒以上の種子をつくる、開花1箇月で種子に発芽能力が備わるなど、繁殖能力が極めて高い難防除雑草です。

見かけた株は引き抜き、地中深くに埋めるか焼却処分します。状況が許せば、種子ができる前にラウンドアップ等の除草剤で枯らすのもよいでしょう。



フウリンホオズキに覆われた小豆ほ場

援農隊募集

『京都援農隊』は、登録しているボランティアが繁忙期の農作業を支援する制度です。「収穫の最盛期には家族だけでは人手が足りない」「まだ雇用には踏み切れない」などの理由で利用されています。

①申請書を作成し、②普及センターと面談・現地を確認します。③申請内容や農場写真が登録されると④援農隊員(ボランティア)に新着情報メールで情報提供され、⑤事務局で対応可能なボランティアを調整。⑥相手が決まれば農業者と応援隊員で直接日程調整をします。

興味のある方は担当地の普及センターまで御連絡ください。

『GAP』をご存じですか？

近年、「GAP」という言葉を耳にすることが多くなりました。一般には、「農業経営全般にわたる細かい行動規範」のように理解されていると思います。確かに、認証GAPを取得する場合は、GAPに示された各項目の達成を点数化して合否が判定されます。しかし、本来、GAPは英語の「Good Agricultural Practice」(=「良い農業の実践」)の頭文字であり、「安心・安全な農産物を生産し、農業者の安全を確保し、周囲の自然環境にも配慮して、農業をしていきましょう」という意味の言葉です。まずは、「良い農業をする」という農業者にとっては「当たり前のこと」を実行することからGAPを始めましょう。

秋から始まる水田のワキ対策

中丹のような粘土の多い水田では、田植後の気温が高いとワキ(ガスの発生)がみられます。

ワキによる水稲の症状

- 葉…葉先から黄色くなり全体に色が薄くなります。
- 茎…水際から上部数センチの部分に有害なガスの働きにより、黒く変色してきます。
- 根…根の活力・張りが弱くなったり、赤褐色になります。

ワキの発生原因

土壌中に未熟な有機物(稲わら等)が大量にあり、田植後の気温が高い場合、湛水時に微生物の働きで有害なガスが発生しやすくなります。

秋から始めるワキ対策

稲刈り後に秋おこしを行い、稲わら等をすき込んで十分腐熟させ、春先に土壌に未熟な有機物が大量にすき込まれないようにしましょう。



障害を受けた稲株

“農薬はラベルをよく見て、安全に使用しましょう”